

【別紙様式2】(小学校用)

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	湯来町立湯来西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1		1		1		0	3	8
児童数	3	4	6	4	4	4	0	25	

研究の概要

1. 研究主題

<p>一人一人に確かな学力をつける教育の創造 ～ 複式・少人数における学習指導の在り方 ～</p>
---

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>・全学年の国語科と算数科 国語科と算数科は、生きる力の基礎となる学習内容を多く含んでいるので、学習指導においてとくに重点を置きたい教科であるため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自ら学び、自ら考える児童の育成 ～ 複式・少人数における学習指導の在り方 ～ 研究の見通し(仮説) 複式・少人数における指導方法や指導体制を工夫改善するならば、一人一人が確かな学力を身に付け、自ら学び、自ら考える児童に育っていくであろう。 研究内容・方法 研究内容 (1) 自ら学び、自ら考え、学び合うことが楽しい授業づくり (2) 複式・少人数における指導方法や指導体制の工夫改善 (3) 一人一人に確かな学力をつけるための取組み 研究方法 (1) 標準学力検査の結果の分析をする。</p>
--------	---

- (2) 確かな学力をつけるための取組みや指導方法，指導体制の工夫・改善について研修する。
- (3) 授業研究を行い，仮説について検証する。
- (4) 日頃の取組みを交流し合い，成果や課題を明らかにする。

テーマ

一人一人に確かな学力をつける教育の創造

～ 複式・少人数における学習指導の在り方 ～

研究の見通し（仮説）

複式・少人数における指導方法や評価を生かした指導を工夫改善するならば，一人一人に確かな学力をつけることができるであろう。

\* 評価を生かした指導の工夫改善が，学力をつけていくためには大切であると判断したため。

仮説 1

一人一人の学習プランと個人カルテを作成し，個に応じた指導を行うことによって，児童の学習意欲を高めることができれば，一人一人の学力が伸びていくであろう。

仮説 2

ガイド学習を充実させることによって，児童に主体的な学習態度を身に付けさせることができれば，一人一人の学力が伸びていくであろう。

平成  
15  
年度

\* 仮説をより具体的にするために，2つの仮説を設定した。

研究内容・方法

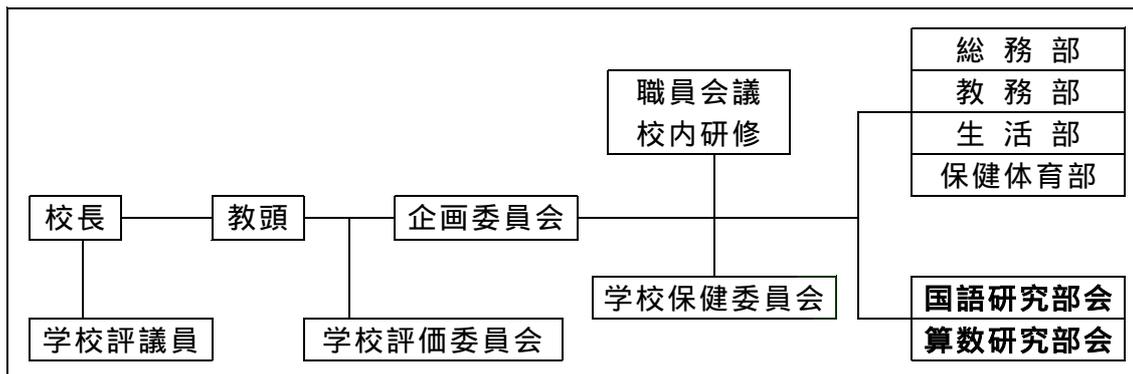
研究内容

- (1) 個に応じた指導のための教材開発について
  - ・理解や習熟の程度に応じた学習プリント
- (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善について
  - ・ティーム・ティーチング
  - ・習熟度別指導
  - ・補充的・発展的な学習
  - ・繰り返し学習
- (3) 学力評価を生かした指導の改善について
  - ・学習プランと個人カルテ
  - ・自己評価
- ア 個別指導の充実
  - ・つまづき解消の支援
  - ・きめ細かな評価
- イ ガイド学習の充実
  - ・ガイド児童の育成
  - ・話し合い活動の充実
- ウ 家庭学習の充実
  - ・自学のすすめ

	<p>・学習時間の設定</p> <p>* 効果的に確かな学力をつけていくために、フロンティアスクールの実践研究の内容の他に、個別指導の充実、ガイド学習の充実、家庭学習の充実を加えた。</p> <p>研究方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学力検査や意識・実態調査等から児童の実態を把握し、課題を明らかにする。</li> <li>(2) 数値化された目標を設定し、研究の成果が目に見えるものにしていく。</li> <li>(3) 他校の実践等を参考に、指導方法や指導体制について研究する。</li> <li>(4) 授業研究を実施し、研究の視点に沿って協議するとともに、仮説の検証を行う。</li> <li>(5) 講師を招聘し、本校の研究について指導を受けることで研究を深めていく。</li> <li>(6) 日頃の取組みを交流し合い、成果や課題を明らかにし、実態に即した研究をしていく。</li> <li>(7) フロンティアスクールにおける各校との連携を図りながら、研究の推進や実践の交流を行う。</li> <li>(8) 数値化された目標から達成度を分析するとともに、仮説の検証を行い、研究の成果を明らかにする。</li> <li>(9) 研究公開を行うなどして、広く成果の普及に努める。</li> </ol> <p>* 研究の方法をより具体的にするために、9項目を増やした。</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>一人一人に確かな学力をつける教育の創造 ～ 学習内容の定着を図る指導と評価の研究 ～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>学習内容の定着を図るために指導と評価を工夫改善するならば、一人一人に確かな学力をつけることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>研究内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習内容の定着を図るための指導方法の工夫改善について</li> <li>(2) 学習内容の定着を図るための評価の工夫改善について</li> <li>(3) 個に応じた指導の充実について</li> <li>(4) 家庭学習の充実について</li> </ol> <p>研究方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学力検査や意識・実態調査等から児童の実態を把握し、課題を明らかにする。</li> <li>(2) 数値化された目標を設定し、研究の成果が目に見えるものにしていく。</li> <li>(3) 文献や他校の実践等を参考に、学習内容の定着を図るための指導方法や評価について研究する。</li> <li>(4) 授業研究を実施し、研究の視点に沿って協議するとともに、仮説の検証を行う。</li> <li>(5) 数値化された目標から達成度を分析するとともに、仮説の検証を行い、研究の成果を明らかにする。</li> </ol>
--------	---

(3) 研究推進体制



\* 研究部会を国語と算数の2部会に精選した。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

研究の成果 1					
<p>「ガイド学習の手引き」を使って学習の進行がうまくできるように支援したり、「一人学習」のときに考えを引き出すための支援をしたりして、ガイド学習を充実させることにより、児童の学習態度を主体的にすることができた。また、進んで発表するといった主体的な学習態度を育てることにより、学習内容の理解を図ることができた。</p>					
1 取組み					
(1) 学年別指導における4段階の学習過程					
段階	上(下)学年の学習活動	教師のわたり		下(上)学年の学習活動	段階
課題把握	本時の問題と学習のめあてを知る。 解決の手順が分かる。 解決の見通しがもてる。	直接指導	間接指導	前時の学習の練習問題や発展問題に取り組む。	練習・発展
課題追求	一人で問題解決に取り組む。 (一人学習) みんなで話し合っって問題解決に取り組む。	間接指導	直接指導	本時の問題と学習のめあてを知る。 解決の手順が分かる。 解決の見通しがもてる。	課題把握
課題解決	解決の道筋と結果を発表する。 自分たちの考えを整理したり、新たな考えを知ったりして課題を解決する。	直接指導	間接指導	一人で問題解決に取り組む。 (一人学習) みんなで話し合っって問題解決に取り組む。	課題追求
練習・発展	本時の学習の練習問題や発展問題に取り組む。	間接指導	直接指導	解決の道筋と結果を発表する。 自分たちの考えを整理したり、新たな考えを知ったりして課題を解決する。	課題解決

4段階の学習過程に直接指導と間接指導を位置づけ、それをずらして組み合わせることで、上・下両学年とも間接指導において、児童が自主的・協力的に問題解決に取り組むことができるようにした。

## (2) ガイド学習

ガイド学習とは

間接指導時に児童が主体的に学習を進めるために、ガイド児童がリードしながら、共同で学習する方式である。

このガイド学習では、児童のリーダーシップや主体的な学習態度の育成だけでなく、ともに学ぶ姿勢や自ら問題を解決する力、学び方を身に付けていくことができる。

ガイド児童の育成

ガイド学習を充実させていくためには、学習の進行役であるガイド児童を育成する必要がある。そこで、「ガイド学習の手引き」を作成し、手引きにしたがって学習を進めるようにさせた。児童は少しずつ学習の進行の仕方を身に付け、自分たちの力で学習が進められるようになってきている。

「一人学習」における支援

ガイド学習を充実させていくためには、「一人学習」において、児童の考えを引き出すための支援が必要である。そこで、次の3つの支援を考えた。これらの支援によって、話し合いを活発にすることができた。

問答による支援（教師が児童と問答しながら、考えを引き出していく。）  
ヒントカードによる支援（ヒントカードから気づかせる。）  
教材・教具による支援（操作活動等を促し、ひらめかせる。）

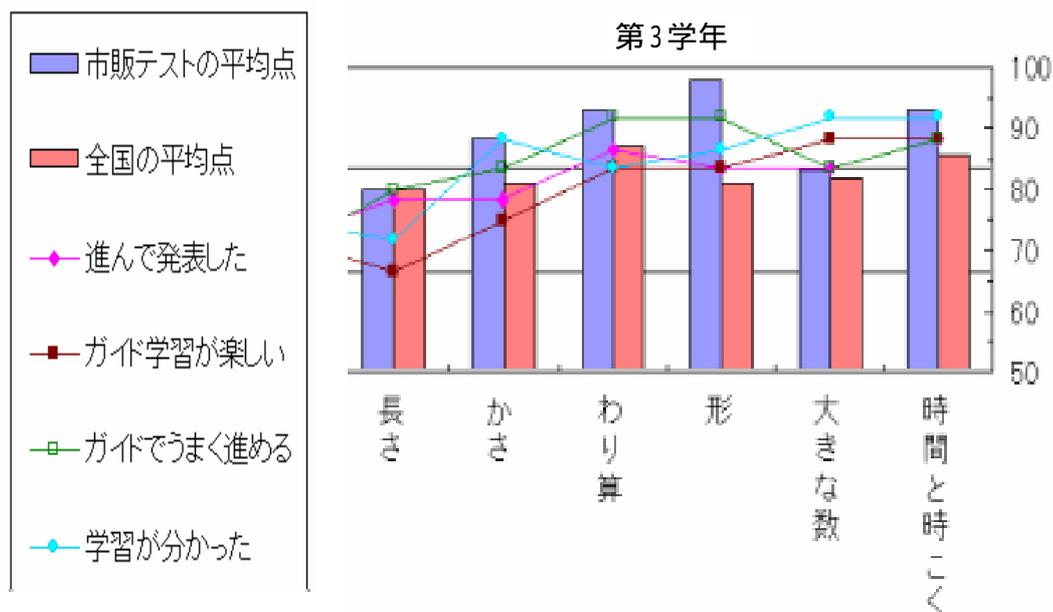
## 2 児童の変容

学習アンケートの結果から

学習アンケートとは、各単元の学習が終わるごとに児童に対して行う質問紙調査である。仮説に対応する質問をし、その結果を得点化して数値で表すことによって、数値の変化から、仮説を検証する。仮説2に対応する質問は、次の通りである。

仮説2と質問の対応表

仮 説	質 問
ガイド学習を充実させる	ガイド学習が楽しくできました。 ガイドのとき、うまく進めることができました。
主体的な学習態度を身に付けさせる	進んで自分の考えを発表しました。
学力が伸びていく	学習したことが分かりました。



これは、3年生の学習アンケートの結果である。これをみると、「ガイド学習が楽しい」と「ガイドでうまく進める」が時間の経過とともに平均点数が徐々に高くなっていることが分かる。また、「進んで発表した」と「学習が分かった」も同じように高くなっていることが分かる。

このことは、ガイド学習の充実によって、進んで発表することができるようになり、学習内容が分かるようになっていることを示している。つまり、ガイド学習の充実が主体的な学習態度を引き出し、学習内容の理解を図っていると言える。

## 研究の成果2

算数科において、「考え方ノート」を活用し、自分の考えを絵や図を使って整理させたり、友達の考えと比較や関連づけをさせたりすることにより、児童の「考える力」を高めることができた。また、自分で考えようとする意欲や自分の考えを積極的に発表しようとする態度も向上させることができた。

### 1 取組み

#### 「考え方ノート」の活用

##### ねらい

深まりや広がりのある授業にするためには、まず児童一人一人に自分なりの考えをもたせることが大切である。算数科において「考え方ノート」を作らせ、自分の考えを整理させることによって、児童に「考える力」を付けていく。

「考える力」とは、学習指導要領の算数科の目標に示される通り、「見通しをもち筋道を立てて考える能力」である。言い換えれば、問題解決の見通しがもてる力である。したがって、本校では、「自分の力で問題の解き方が見つけれられる」「既習事項を使って問題を解決しようとする」「問題が解けたら、別の解き方も考えられる」といった児童の姿を目指して取り組んだ。

## 「考え方ノート」に期待すること

自分の考えを絵や図を使って整理させることによって、「考える力」が付く。  
自分の考えと友達の考えを比較させたり関連づけさせたりすることによって、「考える力」が高まる。  
自分の考えをはっきりさせることで、発表の機会が増えるようになり、ガイド学習に深まりや広がりももてる。  
児童にとって、自分の考えの過程がわかるポートフォリオとなる。  
間接指導中の児童の考え方やつまずきを把握するための資料となる。

## 活用にあたって

複式授業の間接指導の場に位置づける。  
「考え方ノート」導入時にはプリントで様式を定め、ノート作りの仕方を身に付けさせる。

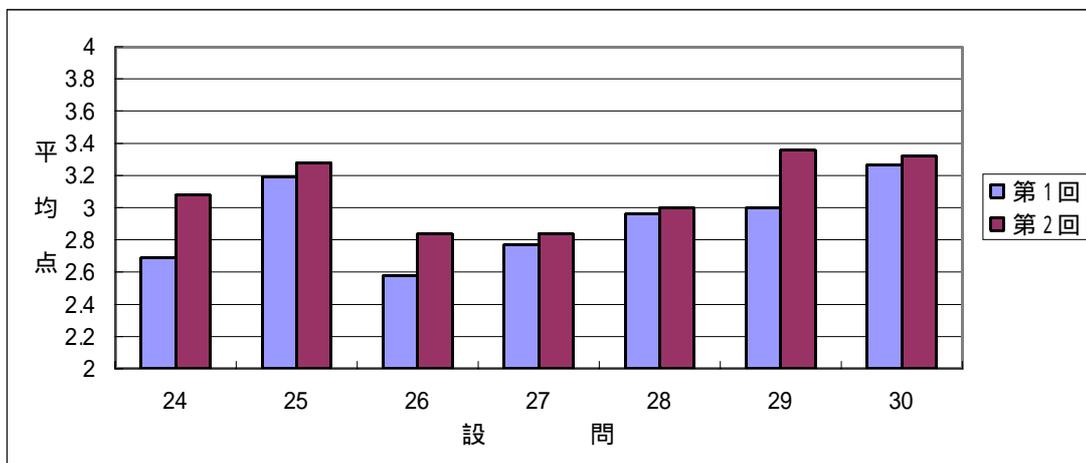
## 2 児童の変容

### 算数科意識・実態調査から

#### 4段階尺度による点数化

よくあてはまる…………… 4点	ややあてはまる…………… 3点
あまりあてはまらない…… 2点	まったくあてはまらない…… 1点

### 学習の内容



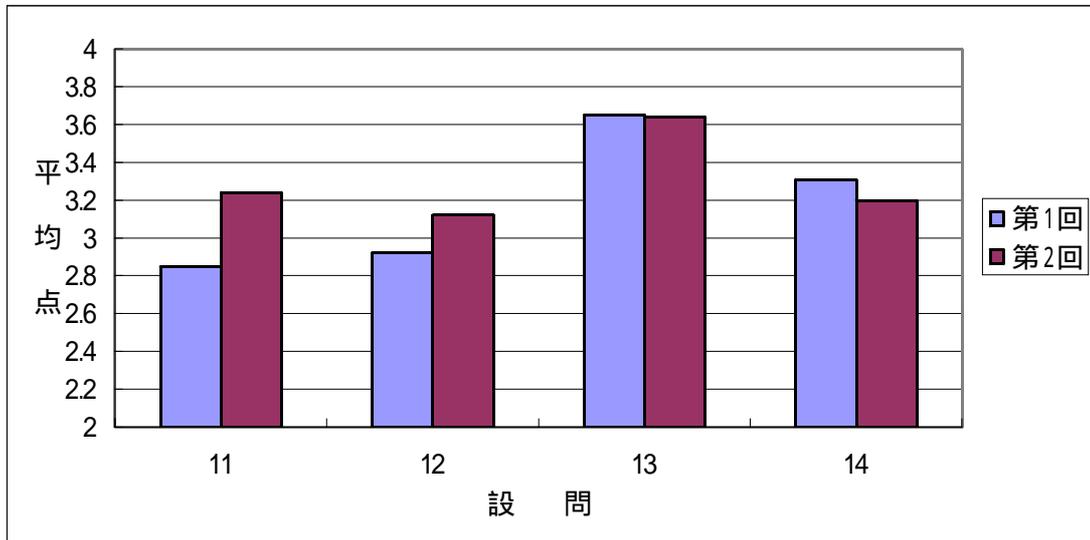
- 設問24 算数の問題を解く時、自分でやり方が見つけられます。  
設問25 算数の問題を解く時、これまでに勉強したことを使って考えます。  
設問26 問題が解けた時、別の解き方も考えます。  
設問27 速く正しく計算することができます。  
設問28 比べたり測ったり求めたりかいたりすることができます。  
設問29 数の表し方や計算の仕方が分かります。  
設問30 ちがいやきまり、読み方、意味が分かります。

第1回と第2回の調査結果を比較すると、設問24「算数の問題を解く時、自分でやり方が見つけられます。」では、平均点が0.39ポイント高くなり、

設問26「問題が解けた時、別の解き方も考えます。」では、平均点が0.26ポイント高くなった。また、設問25「算数の問題を解く時、これまでに勉強したことを使って考えます。」も少し伸びた。

これらの結果から、自分で問題の解き方を見つけたり別の解き方を考えたりすることができる児童が増えていることが分かる。

#### 学習の意欲



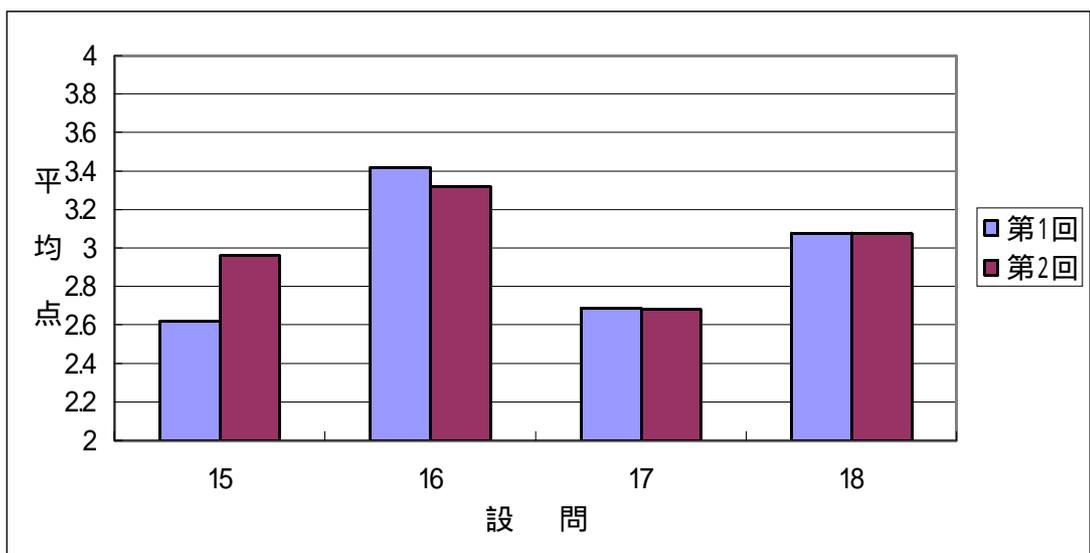
設問11 算数の問題の解き方が分からないとき、あきらめずに自分で考えようとしています。

設問12 次の算数の時間が楽しみです。

設問13 チャレンジタイムでもっと合格したいと思っています。

設問14 算数でもっといろんな勉強をしてみたいと思います。

#### 学習の態度



設問15 算数の時間に自分の考えを進んで発表します。

設問16 算数の授業で分からないことがあったとき、自分で調べたり先生や友だちに聞いたりします。

設問17 算数で学習したことを生活の中で生かしていると思います。

設問18 算数の時間に先生の説明をしっかりと聞いています。

また、設問 1 1 「算数の問題の解き方が分からないとき、あきらめずに自分で考えようとしています。」でも、平均点が0.39ポイント高くなっており、自分で考えようとする意欲も高まっている。

そして、設問 1 5 「算数の時間に自分の考えを進んで発表します。」でも、0.34 ポイント高くなった。3点には届かなかったが、自分の考えを進んで発表して積極的に学習に取り組もうとする態度も見られるようになってきている。

これらのことから、児童は「考える力」を高めるとともに、自分で考えようとする意欲や自分の考えを積極的に発表しようとする態度も向上させている。

## 2. 今後の課題

算数科における「考える力」は、児童の意識や実態をみると高まってきているが、標準学力検査の「数学的な考え方」の数値目標は達成することができなかった。その原因は、時間が経過するとともに学習したことを忘れてしまうという学習内容の定着ができていないことにあると考えている。今後は、確かな学力をつけていくために、家庭学習の内容や学習の仕方について見直していくとともに、学習内容の定着を図る取組みを考えていきたい。

国語科における「読む力」を十分に高めることができなかった。その原因は、ノート指導などの取組みが不十分であったために、確かな読みの力をつけることができなかったのだと考えている。今後は、確かな読みの力をつけるために、指導方法を見直すとともに、読む能力を定期的に測って評価し、それを指導に生かせるように指導と評価の一体化を図った取組みを考えていきたい。

## 学力等把握のための学校としての取組み

### 国語科と算数科の意識・実態調査

#### 1 調査の目的

- ・児童の学習に関する意識や実態を把握するため。
- ・調査結果の分析を通して、本校の課題を明確にするとともに、指導の重点化を図るため。
- ・調査結果をもとに、児童の学習に関する意識や実態についての数値目標を設定し、目標達成に向けての取組みを図るため。

#### 2 実施内容

国語科と算数科における学習に関する意識・実態についての質問紙調査

- ・学習の好嫌度や満足度 ・学習の意欲 ・学習の態度
- ・学習の習慣 ・学習の内容

#### 3 実施時期

昨年度末（3月）と今年度の2学期末（11月）

### 標準学力検査（CRT）

#### 1 検査の目的

- ・児童の学習内容の定着状況を把握するため。
- ・検査結果の分析を通して、本校の課題を明確にするとともに、指導の重点

化を図るため。

- ・ 検査結果をもとに，児童の学力についての数値目標を設定し，目標達成に向けての取組みを図るため。

## 2 実施内容

国語科と算数科における昨年度の学習内容及び，今年度途中までの学習内容についての絶対評価による学力検査

## 3 実施時期

今年度初め（4月）と今年度の2学期末（12月）

「基礎・基本」定着状況調査

### 1 調査の目的

- ・ 学習指導要領に示されている目標及び内容に基づき，特に，「読み・書き・計算」などの基礎的な内容とともに，思考力・判断力・表現力などの定着状況を把握するため。
- ・ 児童の生活や学習に関する意識や実態を把握するため。
- ・ 全県的な結果と比較・分析することを通して，自校の課題を明確にするとともに，指導内容や指導方法の改善・充実に資するため。

### 2 実施内容

第5学年の児童を対象としての国語，算数における前学年までの学習内容の定着状況調査と，全学年の児童を対象としての生活と学習に関する意識・実態についての質問紙調査

### 3 実施時期

1学期（6月）

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 1 研究会の開催実績

平成15年度 湯来西小学校教育研究公開（中間報告）

日 時 平成16年1月30日（金） 13：15～16：50

場 所 湯来町立湯来西小学校

対 象 県内外の小・中学校の教職員と本校の保護者及び地域の方々

目 的 研究公開を行うことで，広く成果を普及するとともに，外部からの評価を受け，今後の研究に役立てるため。また，保護者や地域の方々に本校の教育について理解してもらうため。

### 2 研究成果普及のためのHP作成

研究構想図から具体的な取組みを紹介するように工夫している。

### 3 フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績

学力向上フロンティア事業 第3回広島地区協議会

趣 旨 広島地区学力向上フロンティアスクールの実践研究発表により，各学校における児童生徒の学力向上をめざした指導方法工夫改善等の充実に資する。

日 時 平成16年1月7日（水） 13：00～16：00

場 所 廿日市市役所

対 象 広島県広島教育事務所管内の小・中学校の教職員

内 容 これまでの研究成果の発表

